

【論文】

エジプト高等教育における国家教育質保証・適格認定機構の役割と課題

大阪大谷大学 中島 悠介

はじめに

近年、高等教育部門においてその質をいかに保証するかという課題が、各国において大きな関心事になっている。高等教育の発展が遅れてきたとされる中東アラブ地域の国々においても、同様の動きが見られる。アラブ地域に位置する途上国であるエジプトでは、政府主導により、世界銀行や米国国際開発庁の支援を受けながら、2000年代より高等教育質保証のための制度が整備されてきた。具体的には、2002年に「高等教育向上プロジェクト(Higher Education Enhancement Project、以下、HEEPと略)」が開始され、6つの重点事項が設定された。その中には「質保証・適格認定プロジェクト(Quality Assurance and Accreditation Project、以下、QAAPと略)」が含まれており、高等教育の発展において質の保証が重点事項として組み込まれている¹。その中でも大きな変化は、エジプトの高等教育機関に対して適格認定(アクレディテーション)を行うための組織として、2007年に国家教育質保証・適格認定機構(National Authority for Quality Assurance and Accreditation in Education、以下、NAQAAEと略)が設立されたことである。同時に、エジプトの高等教育機関を評価するための基準として国家学術参照基準(National Academic Reference Standards、以下、NARSと略)が設定され、これらの基準に従って適格認定が実施されることとなった²。以来、NAQAAEによるNARSを通じた適格認定が、エジプト高等教育質保証において中心的な役割を果たすことがめざされている。このようなNAQAAEによる適格認定は、実際に高等教育機関に対してどのような役割を果たそうとしているのだろうか。

このように、エジプトの高等教育部門において質保証制度が整備され、NAQAAEがその質保証において中心的な役割を果たそうとしているものの、これまでの研究ではNAQAAEによる適格認定は発展途上として捉えられており、その役割について論じたものは多くはない。例えば、Ginsburg and Megahed(2011)はエジプト高等教育の質保証について、教員養成に対する質向上プログラムの展開を取り上げ、世界銀行や米国開発銀行といった国際機関による支援とともに、エジプト政府が制度の整備に内部からの影響を与えてきたことを指摘している³。El-Maghraby(2012)は、2011年におけるNAQAAEの公立大学への適格認定の状況を検討しており、公立大学では機関別評価よりも分野別評価が重視されていることを述べている。同時に、公立大学に対する適格認定が普及しない理由について、適格認定を受けることによる明確なメリット(資金配分や設置認可など)や、適格認定を受けないことによるデメリット(資金の漸減、認可の取り消しなど)を提示できていないこと、ステークホルダーからの抵抗が強いこと、また大学をとりまくアクターに、大学の質に対する意識がまだ涵養されていないことなどを明らかにした⁴。また、Schomaker(2015)

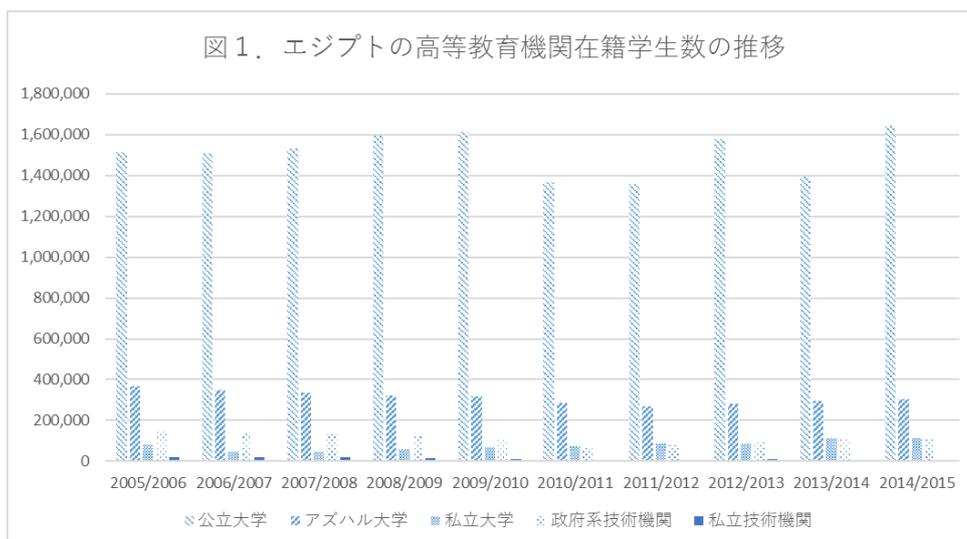
は NAQAAE による適格認定について、NAQAAE がエジプトの高等教育機関全体を評価するにはキャパシティが不足していること、ピア・レビューが政治的・部門的に拘束的なものになっていること、ムルシ大統領（当時）と緊密な繋がりをもつ NAQAAE と政治的・組織的に独立しているアズハルとの関係などについて指摘している⁵。これらの研究は、エジプト高等教育質保証における NAQAAE の役割や課題についてある程度捉えられているものの、分析対象の時期が設置当初のみを取り上げていたり、公立大学などの特定の部門に分析対象が限定されているため、NAQAAE の役割について包括的に検討しているとはいいがたい。同時に、高等教育の質の保証の問題は、高等教育部門そのものの構造や高等教育と社会との関係にも密接に結びついているものであるが、NAQAAE の高等教育部門全体の中での役割について論じたものは少ない。以上の問題関心から、本稿では、エジプト高等教育質保証において、近年設置された第三者質保証機関である NAQAAE の役割を検討し、それに伴う課題について明らかにすることを目的とする。

以上の目的のため、本稿では第1節でエジプトの高等教育の展開状況について概観し、第2節において質保証に関連する制度的な展開を検討する。そして第3節において NAQAAE の評価プロセスと高等教育機関の適格認定の状況を検討するとともに、NAQAAE が設定している評価基準である NARS を取り上げ、実際にどのような基準が設定されているのかを概観する。最後に第4節で、エジプト高等教育省で実施したインタビュー調査を含めた考察を行う。

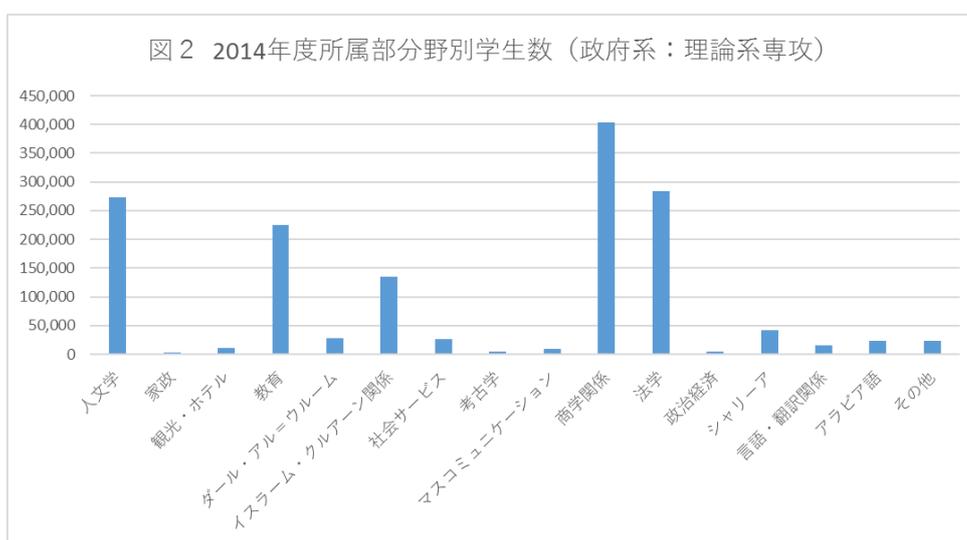
1. エジプト高等教育の展開状況

本節では、エジプトにおける高等教育部門の展開状況について概観する。エジプト高等教育は一般的に、公立大学、私立大学、公立・民間技術教育機関、アズハル大学の4形態に分類することができる。その中でも、アズハル大学はイスラームの宗教系大学とされる一方で、他の3つの形態についてはより世俗の性格が強い高等教育機関として分類できる。まず世俗の高等教育機関に関して、CAPMAS(2016)によれば、公立大学については、1908年に設置されたカイロ大学や1950年に設置されたアインシャムス大学をはじめ、2014年度時点で24の大学が設置されているとされ、これらの大学の授業料は原則無償となっている。私立大学については、1919年にカイロ・アメリカン大学が設立されて以降、1972年にアラブ科学技術開運アカデミーが設置されるなど、2014年度時点で21大学が展開している。現在における私立大学の設置については、1992年に制定された「私立大学法」に規定されており、カイロ・ドイツ大学、エジプト・英国大学といったエジプト国外の教育課程をもとにした大学も発展している。技術教育機関については、2014年度時点で13機関（公立：8、私立：5）が設置され、これらの機関では2～3年の実践的な技術教育・職業教育が実施されている⁶。

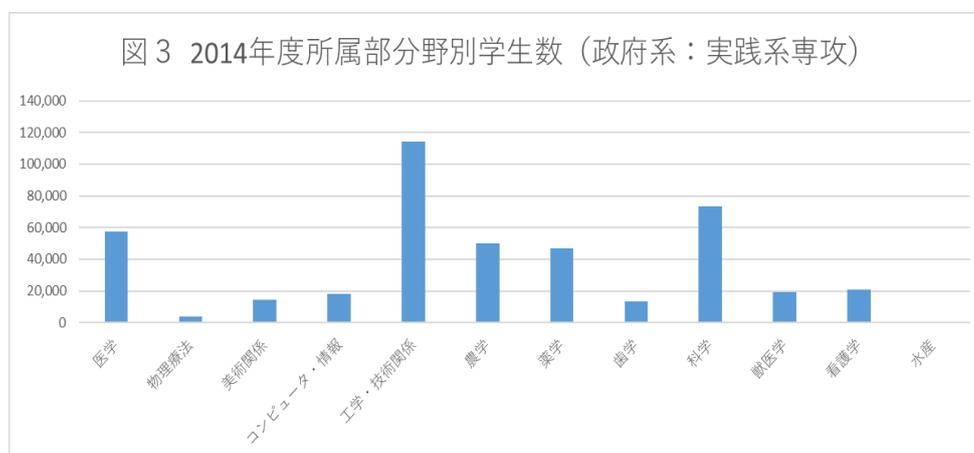
イスラームの宗教系大学であるアズハル大学は、970年にアル=アズハルモスクに設置されたマドラサを前身としており、現在に至るまで長い歴史を有している。世俗の高等教育機関は高等教育省によって管轄されている一方で、アズハル大学はアル=アズハル機関中央委員会（Central Administration of Al-Azhar Institutes）によって管轄されているため、高等教育部門の管理という側面では、世俗の高等教育機関と分離された位置づけになっている。アズハル大学では、伝統的にはイスラーム学・イスラーム法学・アラビア語学の3学部が展開しているが、ナセル政権の1960



出典: Central Agency for Public Mobilization and Statistics(CAPMAS). *Statistical Yearbook 2016*. issue 107, 2016, pp.324-333, 346-349 より筆者作成。



出典: Central Agency for Public Mobilization and Statistics(CAPMAS). *Statistical Yearbook 2016*. issue 107, 2016, pp.334-345 より筆者作成。



出典: Central Agency for Public Mobilization and Statistics(CAPMAS). *Statistical Yearbook 2016*. issue 107, 2016, pp.334-345 より筆者作成。

年代以降、新たに医学部・工学部・農学部および女子大学が設置されており、これらの学部においては比較的宗教色が薄くなっている。

次に、これらの高等教育機関に在籍している学生数の推移を概観する。図1は、公立大学、アズハル大学、私立大学、技術教育機関（公立・私立）の学生数の推移を示している⁷。2014年時点で高等教育部門の全学生数は2,169,336人であり、うち公立大学は1,642,715人となっていることから、公立大学の学生のみで全学生数のおよそ4分の3を占めている。実際に、カイロ大学の学生数は230,309人、アインシャムス大学が180,175人、アレクサンドリア大学が161,545人となっているなど、特定の公立大学に学生が集中している状況がある。アズハル大学の学生数は2014年度時点で304,072人となっており、およそ全学生数の15%ほどを占める一方で、私立大学は公立大学とほぼ同数の大学が展開しておりながら、その学生数は110,859人に過ぎず、学生の割合は全体の5%ほどにとどまっている。このような学生数の構造は、公立大学の学生数の増減はあるものの、ここ10年間は同様の傾向を示しており、公立大学がエジプト高等教育において中心的な位置づけであることが見て取れる。1992年の「私立大学法」制定以降、大学数自体は公立・私立でほぼ同数になっているものの、カイロ・アメリカン大学といった私立大学の授業料が高額であるため、原則無償となっている公立大学への学生の集中はいまだ続いているといえる。

図2、3は公立大学とアズハル大学を合計した専門分野別の学生数であり、図2は理論系専攻（主に人文・社会科学分野）、図3は実践系専攻（主に自然科学分野）となっている⁸。図2を見てみると、商学関連学部で在籍する学生が403,303人、人文学に関連する学部で所属する学生が273,383人、法学部に所属する学生が284,278人、教育学部が225,306人、イスラーム・クルアーンに関連する学部で134,818人となっており、これらの学部で全学生数の約6割（1,321,088人）を占めている。図3を見てみると、工学・技術関係の学部が114,286人、理学部が73,448人、医学部が57,646人、農学部が50,091人、薬学部が46,903人となっており、図3で表示されている学部をすべて合計しても432,697人にとどまっている。このように特定の公立大学や文系学部で学生が集中している状況は、教育部門の国家財政を圧迫したり、また、産業の発展のために需要が大きい理系人材を十分に労働市場に提供できないといった問題につながっている。

2. エジプト高等教育における質保証関連施策の展開

本節では、エジプト高等教育における質保証に関する施策の展開について概観する。エジプト高等教育の質保証に関する最初の取り組みは、工学・技術教育プロジェクト（Engineering and Technical Education Project、以下、ETEPと略）であり、1989年から1998年までの間に実施された。ETEPでは準備段階として、カイロとベニスーフにおいて技術カレッジが設置された。また、エジプトの公立大学において、業務を改善するために研究室を整備したり、ワークショップを開いたりといった改革が実施された。1990年5月、30.5百万ドルの借款を世界銀行と締結し、8百万ドルを政府が出資するという同意によって準備段階が終了し、ETEPのプロジェクト・マネジメント・ユニットを中心とした実行段階に移されることとなった⁹。

ETEPによる工学に関連するプログラムが一定の成果を上げたことから、その後続くプロジェクトとして「高等教育発展戦略計画」の策定が、1998年から2002年までの3年間をかけて実施さ

れた。この計画の策定のため、高等教育大臣を委員長に据え、政府と私立大学の代表、高等教育部門の専門家などにより構成される委員会が設置された。

この計画の策定の過程で、2000年2月、「21世紀における高等教育のための政府ビジョン」が制定され、また、JICA やアラブ湾岸ファンド、米国フォード基金からの補助金を獲得により実施に移されることとなった。この「21世紀における高等教育のための政府ビジョン」では、その目的として、以下の能力をもつ学生を育成することが明記された。つまり、「継続的な自学自習の能力を保持している」「科学的、技術的、知的および文化的知識や技能、また継続的な発展の能力を反映した、バランスのよい人格をもつ」「科学研究を利用し、科学的コンピテンシーを発展させる能力をもつ」「効果的なコミュニケーションスキルをもつ」「自信をもち、競争力のある能力を発揮できる」「批判的能力と問題解決能力」「文化的アイデンティティと国家の言語の保持」「職業的・科学的倫理を遵守する」ような人材を育成することが挙げられている。同時に、高等教育改革の戦略的目的として、「包括的で持続可能な、科学的、技術的、文化的、イデオロギー的特質を備えた人的資源の開発」「科学研究を利用し、能力を涵養する」「文化センターや教育センターとしての高等教育機関の役割の最大化」「高等教育機関の包括的な経営改革と、全体的な質と持続的な発展の原理の統合」「持続的な生涯学習の制度を認めるような教育制度と法規を開発する」とされ、ここでも高等教育機関の経営改革や質保証の発展について触れられている¹⁰。

「21世紀における高等教育のための政府ビジョン」を実行するための最初のフレームワークとして、「高等教育向上プロジェクト (HEEP)」が開始され、2002年から2009年にかけてプロジェクトの第一段階が実行された。HEEPの戦略目標として、「パブリック・マネジメントの包括的な改革と、高等教育制度の効果的な管理」「高等教育の質と適切性の改善」「中級技術教育の質と適切性の改善」の3点が挙げられている。この中で適格認定について述べられているのは、「パブリック・マネジメントの包括的な改革と、高等教育制度の効果的な管理」であり、「商品とサービスの提供」「エジプト高等教育を統括する法律の改革」「よりわかりやすく、公平・公正で、明確な方法によって提供されるような資金配分メカニズムの理論化・明確化」「NAQAAEの設立と、NAQAAEに対する必要な能力養成のメカニズムの付与」「マネジメントにおけるアドミニストレーターのための能力開発・訓練と、管理の手続きを簡略化するための技術の利用」「高等教育向上プロジェクト基金 (HEEPF) の設置」「HEEPFから高等教育機関へのサブ・プロジェクトを実施するための補助金の提供」が挙げられている点で、NAQAAEによる高等教育機関への適格認定は主として高等教育制度の管理の方法として位置づけられていることが見て取れる。一方で、「高等教育の質と適切性の改善」では主として図書館やインターネット、情報技術などのネットワークの向上について、また、「中級技術教育の質と適切性の改善」では技術系教育機関の連携強化やパフォーマンス向上、教員研修やインフラ整備について述べられており、NAQAAEとの関わりについては言及されていない¹¹。

このHEEPにおける以上の目的を達成するために、合計で25のプロジェクトが承認され、そのうち12にプロジェクトに優先度が付されたが、これらのプロジェクトは以下の6つのプロジェクトにまとめられ、2002年から2007までの間に実施された。それは「高等教育向上プロジェクト基金 (HEEPF)」「情報コミュニケーション技術プロジェクト」「エジプト技術カレッジプロジェクト」

「教育学部プロジェクト」「学部リーダー開発プロジェクト」「質保証・適格認定プロジェクト(QAAP)」となっており、この QAAP において NAQAAE を含めた質保証の施策が進められた。

QAAP は、高等教育機関が内部質保証の仕組みを備えることで、NAQAAE の適格認定に申請できるように準備することを目的としている。具体的には、NAQAAE の設置、学術コミュニティにおける質の文化の涵養、公立大学における質保証や適格認定のセンターを設置の促進、公立大学における質の保証に関する戦略計画策定の促進、様々な教育プログラムの参照できるような学術水準の設定、各学部で内部質保証の仕組みを発展させることが挙げられている。実際には、2007 年に NAQAAE が設置され、機関別認証評価のための基準とともに、10 の分野の教育プログラムのための国家学術参照基準 (NARS) が制定された。また、高等教育の質保証の部門において5年間訓練されたピアレビューアー、現地訪問調査のリーダー、技術専門家および管理運営者のデータベース化が行われることとなった¹²。

3. NAQAAE による適格認定の展開状況

本節では、NAQAAE による評価プロセスと、エジプト高等教育における適格認定の展開状況を明らかにするとともに、NARS による評価基準の概要を示す。

(1) NAQAAE の評価プロセス

まず、NAQAAE による適格認定の対象は高等教育機関、アズハル関連機関、初等・中等教育機関であり、基本的にエジプトにおけるすべての教育機関をカバーしている点で、一元的にこれらの機関の質を統括しようとしていることが特徴的である。高等教育省とアズハル機構は、組織的には互いに独立しているが、高等教育省のメンバーの中にはアズハル大学からの人物が入っていたりするため、完全に分離されているというわけではなく、高等教育部門として緊密に連携しているとされる¹³。適格認定を受ける単位は、機関別評価として「大学」、また、専門分野別評価として「学部」または「課程 (プログラム)」となっている。アズハル関連機関については、高等教育部門と初等・中等教育部門をもっており、大学やそれらを構成する学部については、基本的に世俗の高等教育機関の機関別評価・専門分野別評価が適用されるが、アラビア語学などいくつかの伝統的な専門分野についてはアズハル大学に専用の NARS が適用される。

適格認定を申請する教育機関の条件は、世俗の高等教育機関とアズハル大学で異なっている。まず世俗の高等教育機関については、①機関は、高等教育省によって、高等教育機関として運営するための認可を受けている。②機関は、少なくとも1度、適格認定を受けることを希望する教育プログラムにおいて学修修了資格を提供したことがある。③機関は、特定の認可された明確なメッセージおよび、文書化された戦略計画をもっている。④教育システムにおいて、内部質保証と、監査を受けるための年次報告書を備えている、の4点が挙げられている¹⁴。一方で、アズハル大学および学部については、①当該機関 (学部) がアズハル最高評議会より、アズハルの機関として運営する認可を受けている。②少なくとも1度、教育プログラムにおいて学位を提供したことがある。③機関は特定の許可された、明確なメッセージおよび戦略計画、内部質保証システム、年次報告システムを備えている、の3点が挙げられており¹⁵、内部質保証の整備や年次報告書を作成している点は

世俗の高等教育機関と共通しているものの、認可する主体についてはアズハル最高評議会であることが明記され、世俗の高等教育機関と分離されていることが表れている。

適格認定における評価の手順については、まず機関自体による自己評価をもとにして、機関への現地調査が実施される。現地調査では、3人または4人のチームが結成され、評価者はNAQAAEにおいて訓練・認定を受けた者となる。その中の1名はチームリーダーとして活動することとなる。評価者として活動するためには、評価者として認定される前にNAQAAEが実施する訓練測定への参加を申請する必要がある。評価者として有望であるとされた訓練者は、評価者になることを申請し、過去の職業資格に沿って選出されることになる。しかし、評価者としての活動は契約に基づくものであり、評価者の仕事は、特定の適格認定のプロセスにおいてNAQAAEによって評価されるとともに、チームのメンバーによっても評価され、その結果に従ってさらなる契約のために選出されることとなる。大学や高等教育機関が最終的に適格認定を受けるかどうかはNAQAAEの常勤職員にゆだねられている¹⁶。

(2) NAQAAEによる適格認定の状況

2017年時点で、世俗の高等教育機関に対する機関別評価のためのNARSとともに、以下の31分野のNARSが設定されている。それらは、アラビア語、英語、医学、薬学、看護学、歯学、基礎科学、文学、言語学、農学、法学、商学、メディア学、家政学、都市計画、応用芸術、幼児教育学、観光・ホテル、体育、環境学、獣医学、物理療法、工学、ダール・アル＝ウルーム、経済・政治・統計学、音楽教育、美術、コンピュータ・情報学、社会福祉、特別教育、教育学であり、2010年の時点でこれらの基準は一通り発行されていた。また、先述の通り、アズハルに関連する機関については伝統的な学問への専門分野別評価として、「アラビア語学」「イスラーム法・シャリーア・法学」「クルアーンの読誦やその科学」「信仰および布教の原理」のNARSが設定されている¹⁷。

表1は、2017年時点におけるNAQAAEによる専門分野別評価を通じた適格認定の状況である。大学として適格認定を受けているのはカイロ・アメリカン大学のみであり、公立大学およびアズハル大学において機関別評価を受けている大学はない。専門分野別評価において適格認定を受けてい

表1. NAQAAEによる適格認定を受けている分野

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	計
工学	1	3	1	8	5	2	5	1	26
医学		1	2	3	6	1	3	1	17
教育学		2	1	10	2		2		17
薬学		4		3	2		5	1	15
理学		2	2	2	3	2	3		14
農学			1	3	2	2	3		11
看護学	1		1		3	1	1	2	9
獣医学		1		1	2	1	2		7
歯学				2	1	2		1	6
観光学				2			1	1	4
経済・経営学				2			1		3
言語学				2		1			3
その他				2	4	1	2	1	10
計	2	13	8	40	30	13	28	8	142

出典: Al-Hayyat al-qawmīyat li-ḍamān jawdat al-ta'lim wa al-i'timād. 'Al-muwasisāt al-ta'lim al-'ālī.'

http://naqaae.eg/?page_id=972(2017年5月5日取得)より筆者作成。また、件数が全体で2件以下の分野は「その他」にまとめた(法学、文学、総合学術、芸術学、運輸学の5分野)。

る件数は142件となっており、そのうち学部として適格認定を受けているのは136件に上っている一方、課程として適格認定を受けているのは6件となっている。表1を見れば、2010年の時点で適格認定を受けていたプログラムは2つにとどまっていたものの、2013年、2014年には70の学部・プログラムがNAQAAEの適格認定を受けており、これらの年のみで全体の約半分を占めている。適格認定を受けている分野を見てみれば、工学、医学、薬学、理学、農学、看護学といった理系の分野が多く適格認定を受けている。文系の分野を見れば、教育学が合計で17件と突出して多いが、その他の文学、法学、経営・経済学といった分野はその学生数の多さにも関わらず、ほとんど適格認定を受けていない状況である。また、アズハル大学も3つの学部が適格認定を受けているものの、それらは医学部（男子）、歯学部（女子）、理学部（男子）といった世俗の要素が強い学部のみにとどまっており、伝統的なイスラームおよびアラビア語学の分野では未だ適格認定を受けていない状況である¹⁸。

（3）NARSを用いた評価

本節では、NARSを通じた適格認定によるNAQAAEの役割を検討するため、一例として、比較的多くの大学の医学部が認定を受けている医学分野を対象としたNARSを概観する。

まずNARSの目的として、「NARSは、医学部の学部教育プログラムを設計、向上させるための外部参照基準として提供されるために開発された。それらは医学における学士学位の授与のための基準に関する一般的な期待を表すとともに、そうした資格が示すべき態度や能力を表現するものである」とされている。対象は学士課程および研修医とされ、「卒業生が、高等教育在籍時に発展させていると期待される職業・雇用に関連する能力や、それらに関連する経験・実践を含んでいる」ことが明記される一方、「これらの基準は、政府が生徒の利益や、個々の学部やコミュニティの評判を守るために、適切で合理的であると考えられる、最低限の学問的な質の要求である」とされていることから、最低基準としての位置づけが強調されている¹⁹。

医学部を対象としたNARSは、NAQAAEが単独で作成したのではなく、エジプトの大学関係者、大学の最高評議会の医学部門委員会、医療組合の代表者、健康・人口省、軍事病院、民間病院、学生によるグループによって作成された点で、評価基準の策定にはエジプトにおける医療に関する学界関係者、医療関係者および政府関係者といった多様なアクターが関与していることがわかる。その中で、「NAQAAEの役割は、必要とされたとき、NARSを開発し、評価し、修正することである」と明記される一方で、大学最高評議会医学部門委員会の役割にも言及されており、それは「NARSの開発、普及、実行の推進に参加することである」とされることから、NARSの実際の遂行には大学最高評議会医学部門委員会が一定の役割を果たしていることがわかる²⁰。

一方で、医学部のNARSには、学部が果たすべき役割についても明記されている。それは「関連する外部の参照点を基準にして自らの基準を開発し、それらの基準が、NARSの敷居となる基準に等しくないか、超えるかどうかという、NAQAAEの認可を保証することであり、大学自体の基準とプログラムの設計が大学最高評議会の規制枠組みや附則に従っていることを保証することである」とされていることから、あくまでNARSは参照項目であり、実際の基準に関しては当該大学の医学部が責任をもって作成し、達成することが想定されている。一方で、NARSとは異なる基準

で行われるプログラムを開発することも可能であり、「もし医学部が実際の学習成果が NARS とは異なるプログラムを開発するのであれば、そのことはそのミッションにおいて述べられるべきである」ともされており、その具体的な事例として、NARS によって適格認定を受けたプログラムとは異なるミッションをもつことや、通常とは異なる学生の受け入れ人数を設定すること、もしくは、卒業生やほかのステークホルダーの需要によって関連していると認められるような代替の外部参照点を使用することも可能であることが明記されている²¹。このことから、医学部の NARS に関しては比較的例外措置も認められる形で適用されていることが見て取れる。

また、すべての医学部は、自己評価報告書や外部監査を明確にすることが求められている。NARS の基準は、医学部の卒業生の態度、知識と理解、実践的・臨床的技術、職業態度・行動技術、コミュニケーション技術、知的技能、一般的・移転可能な技能から構成されているが、これらの項目では、それぞれ身につけるべき技能は示されているものの、具体的な基準が示されているわけではない。一方で、「学生が従事するコミュニティにおける様々な文化的信念や価値観を理解し、尊重する」「すべての患者を等しく扱い、信条、文化、行動に関わらず、いかなるカテゴリーの汚名を着せることを避ける」「患者の社会的、文化的、人種的背景や障害に関わらず、個人と効果的にコミュニケーションをとる」といった点に関しては、多文化・多民族社会であるエジプトの特質が表れているように見える²²。

4. 考察

本節では、前節までに取り上げた情報をもとにしつつ、2017 年 3 月 2 日に実施したエジプト高等教育省のディレクターである Reem Derbala 氏へのインタビューなどから、NAQAEE による適格認定の役割について考察する。

まず、NAQAEE による適格認定による資金的なインセンティブについては、適格認定を受けているからといって影響があるわけではないが、「適格認定を受けるという申請を NAQAEE にすれば、そのための資金と支援を得ることができる」という。つまり、「内部質保証の仕組みの整備のための技術的な支援や、それに必要な資金の配分など」においてメリットがあるとされるものの、あくまで適格認定を受けるために内部質保証を整備するための支援に限定されているために、適格認定を受けたあとについては資金的・制度的な補助があるわけではない (Reem Derbara 氏インタビュー)。そのため、大学や学部、プログラムにとっては明確なインセンティブとはいえない状況がある。

実際に適格認定における機関別評価を受けているのは、私立大学であるカイロ・アメリカン大学のみであり、多くは専門分野別評価として学部を対象に実施されている状況である。私立大学にとってのインセンティブは、「適格認定を受けているということは、学生をより引き付ける広報効果が大きいと思う」とされているが、実際の私立大学の学生数は、全体の 5%程度であり、高等教育部門全体においてはその割合はわずかである。公立大学への適格認定の機関別評価が普及しない理由については、「大学の規模が大きすぎることであり、個別の学部は適格認定を得ようとするが、機関として動くことはこれまではない」ということが述べられ (Reem Derbara 氏インタビュー)、実際にエジプトで最も規模の大きい大学であるカイロ大学の約 25 万人を筆頭に、公立大学の多く

は20万人を超える規模で運営されていることも、適格認定の実施に影響を及ぼしている。また、私立大学にとっては「NAQAAEからの適格認定を受けている」という状況がより多くの学生を集める可能性がある一方で、公立大学については「入学人数が大きいことに加え、各学部の定員も高等教育省や計画省によって決められるため²³、適格認定の結果が学生を引きつけることに影響を及ぼすこともない」ということから、公立大学の学生の獲得にも影響は限定的であるといえる（Reem Derbara氏インタビュー）。

このように、エジプト高等教育におけるNAQAAEの適格認定の役割を考察すると、高等教育機関の内部質保証の向上を促進させるとともに、すべての高等教育機関・分野を対象とすることで、高等教育部門全体の質の一元的な管理を進めようとしていることが見て取れる。エジプト高等教育における質保証制度を整備する過程において、NAQAAEによる適格認定は、高等教育部門における効果的な管理を行うための改革の中の1つの手段として位置づけられている。一方で、高等教育機関に対してはNAQAAEによる適格認定が普及しているとはいえず、実際には理系学部を中心とした学部に対する適格認定にとどまっている。また、アズハル大学に対しても世俗の要素が強い学部に対する適格認定にとどまっており、伝統的なアラビア語やイスラームに関する適格認定の基準は設定されているが、現段階では適格認定を受けられていない点で、各学部に対する専門分野の質の向上には一定の役割を果たそうとしているものの、高等教育機関への効果的な管理という点では多くの課題が残されているように見える。同時に、他の高等教育機関にとっても機関として適格認定を受けるメリットは大きくなく、そこには適格認定を受けることによるインセンティブの不明確さであったり、特に公立大学にとっては学生数の定員を政府が決定しているという、中央集権的な高等教育部門の構造も影響していることが見て取れよう。

おわりに

本稿では、エジプト高等教育質保証において、近年設置された第三者質保証機関であるNAQAAEの役割を検討し、それに伴う課題について明らかにすることを目的としている。エジプトでは、高等教育部門の第三者質保証機関としてNAQAAEが設置されたが、その主な役割は質の保証を通し、多様な枠組みのもとで展開される高等教育機関の質の統合を進めようとするところと考えられる。しかし、NAQAAEはNARSを設定し、高等教育機関への適格認定を進めているものの、高等教育機関への評価はほとんど行われておらず、特定の学部やプログラムへの評価にとどまっている。その原因として、高等教育機関の規模が大きすぎるため機関全体の評価を行うことが困難であることや、公立大学にとっては入学定員が中央集権的に決定されるために質保証が学生募集にメリットとして機能しないために、質保証によるインセンティブが大きくないとみなされていることが挙げられる。一方で、私立大学については、NAQAAEからの適格認定を受けることによって学生の増加につながる可能性があり、学部単位ではあるものの近年の動向において適格認定を積極的に受けていることが明らかになった。ただし、現状では私立大学がNAQAAEからの適格認定を受けていても、学生は原則無償とされる公立大学に集中しがちであることから、高等教育部門の展開における公立依存の状況はいまだ続いており、こうした状況に対応するにはしばらく時間が必要であると考えられる。このように、国際機関の援助により第三者質保証機関としてNAQAAEが設置され、高等教

育機関への質保証制度が整備されたものの、国内の硬直的な高等教育制度により十全な働きができておらず、そうした旧来からの高等教育部門の構造にどのように対応していくかが今後の NAQAAE の課題といえるだろう。

このように、NAQAAE による適格認定は、高等教育部門において一定の役割と課題を抱えているものの、その発展は未だ途上である。特に、今回一例として取り上げた医学分野の NARS 以外にも、多岐にわたる分野において設定される NARS の評価基準が実際にどのように適用されるのか、それらの評価が高等教育機関に対して実際にどのような影響を与えるのか、また、宗教系の高等教育機関であるアズハル大学においてどのような質保証の取り組みが行われうるのかについても、継続して検討する必要がある。このように、エジプト高等教育において NAQAAE による質保証が今後どのように展開していくのか、今後の動向に注目したい。

【注】

- 1 Ramadan, F. I., Zaaba, Z. and Umemoto, K. 'Quality Assurance of Egyptian Higher Education: A Policy Transfer Perspective.' *Literacy Information and Computer Education Journal*. vol. 2, issue. 1, 2011, pp.338-349. Barkawi, A. H. 'Quality Assurance System in Education: A Country Report, Egypt.' Round Table Meeting of Islamic Countries, Malaysia, 2009.
- 2 Organization for Economic Cooperation and Development. *Reviews of National Policies for Education: Higher Education in Egypt 2010*. Organization for Economic Cooperation & Development, 2011. pp.196-201.
- 3 Ginsburg, M. and Megahed, N. 'Globalization and the Reform of Faculties of Education in Egypt: The Roles of Individual and Organizational, National and International Actors.' *Education Policy Analysis Archives*. vol.19, no.15, 2011, pp.1-29.
- 4 El-Maghraby, M. 'Accreditation of Public Universities in Egypt.' UNESCO-International Institute of Educational Planning, 2012.
- 5 Schomaker, R. 'Accreditation and Quality Assurance in the Egyptian Higher Education System.' *Quality Assurance in Education*. vol. 23, issue. 2, 2015, pp.149-165.
- 6 Central Agency for Public Mobilization and Statistics(CAPMAS). *Statistical Yearbook 2016*. issue 107, 2016, pp.324-333.
- 7 *Ibid.*, pp.324-333, 346-349.
- 8 *Ibid.*, pp.334-345.理論系専攻、実践系専攻の別は、当該資料における分類による。
- 9 Project Management Unit. *Evaluation of the First Phase of HEEP (2002-2009)*. Ministry of Higher Education, 2010, p.10.
- 10 *Ibid.*, pp.11-12.
- 11 *Ibid.*, p.12.
- 12 *Ibid.*, p.12, 17.
- 13 エジプト高等教育省ディレクターの Reem Delbara 氏へのインタビュー (2017年3月2日)。
- 14 Al-Hayyat al-qawmīyat li-ḍamān jawdat al-ta'lim wa al-ī'timād. 'Shurūt wa ijrā'āt al-taqaddum al-'ālī.' http://naqaae.eg:80/?page_id=926(2017年5月5日取得).

- 15 Al-Hayyat al-qawmīyat li-ḍamān jawdat al-taʿlīm wa al-iʿtimād. 'Shurūt wa ijrāʿāt al-taqaddum li-iʿtimād mu'assasāt al-taʿlīm al-azharī al-ʿālī.' http://naqaae.eg:80/?page_id=1491(2017年5月5日取得).
- 16 Schomaker. 2015, *op.cit.*, pp.149-165.
- 17 Al-Hayyat al-qawmīyat li-ḍamān jawdat al-taʿlīm wa al-iʿtimād. 'Isdārāt al-taʿlīm al-ʿālī.' http://naqaae.eg/?page_id=1237(2017年5月5日取得).
- 18 Al-Hayyat al-qawmīyat li-ḍamān jawdat al-taʿlīm wa al-iʿtimād. 'Al-muwasisāt al-taʿlīm al-ʿālī.' http://naqaae.eg/?page_id=972(2017年5月5日取得).
- 19 National Authority for Quality Assurance and Accreditation of Education. *National Academic Reference Standards (NARS) Medicine*. 2009, p.2
- 20 *Ibid.*, pp.2-3.
- 21 *Ibid.*, pp.3-5.
- 22 *Ibid.*, pp.8-16.
- 23 エジプトの公立大学へ入学するためには、個別の大学による入学者選抜はなく、サーナウイーヤ・アーンマと呼ばれる、高校2年次と3年次に受験する中等教育修了試験の平均点が評価の対象となっている。最難関の医学部の場合、90パーセント以上の得点を得なければ合格できない。理工系の学部も、80パーセント台の好成績を取得するが必要である（日本学術振興会カイロ研究連絡センター「法学部の新設を十年間凍結、学生数も大幅削減へ」https://www.jsps.go.jp/j-kaigai_center/data/news/2010/3.pdf、2017年5月6日取得）。

The Roles and Challenges of “National Authority for Quality Assurance and Accreditation in Education (NAQAEE)” in Egyptian Higher Education

Yusuke NAKAJIMA

This paper aims at clarifying the roles and challenges of “National Authority for Quality Assurance and Accreditation in Education (NAQAEE)” in Egyptian higher education sector. In Arab states, national quality assurance agencies have been established since the late 1990s, and also in Egypt, NAQAEE was established in 2007 to assure and improve the quality of all education sectors, not only higher education but also k-12 education. However, Egyptian higher education structure is complicated; it holds public universities, private universities, public/private technical institutions and Al-Azhar University (Islamic religious educational institutions). Under such situation, in this paper, it investigated the kinds of roles and challenges NAQAEE has in Egyptian higher education. Clarifying the roles and challenges of NAQAEE will be meaningful for better understanding of Egyptian higher education and future collaboration between Egyptian and Japanese higher education institutions. As a result, NAQAEE tries to integrate the quality of higher education institutions through accreditation with institutional evaluation and evaluation by academic discipline. However, there are some challenges. Each public university is so large that it is difficult for them to deal with institutional evaluation. In addition, for higher education institutions, there are less clear incentive for accreditation, because students’ enrollment size is designed by Egyptian government and accreditation by NAQAEE itself doesn’t influence students’ enrollment so much. Centralized administration is the characteristic of Egyptian higher education, and NAQAEE tries to integrate the quality of higher education institutions through accreditation. However, government control itself disturbs the prevalence of quality assurance of higher education institutions.